

報告 第2回地域福祉保健計画策定懇談会

第4期瀬谷区地域福祉保健計画策定に向けて、11月21日（木）に第2回策定懇談会を開催し、学識経験者や地域、福祉保健団体等を代表する委員の皆様にご意見をいただきました。

今回は、第1回策定懇談会でいただいたご意見をふまえて作成した、第4期瀬谷区地域福祉保健計画の「基本目標」と「大切な視点」（案）についてご意見いただきました。また、区民意識調査や団体ヒヤリングの報告や地区別計画策定指針の構成案についてご意見をいただきました。

【第4期基本目標と大切な視点（案）】

第3期 隣近所で見守り・支え合う地域づくり

基本目標Ⅰ “おたがいさま”で気づき合う地域づくり

見守り、支え合いは、居場所づくりや交流の取組によって大きく前進してきました。第4期計画では、認知症の方、障害のある方、生活に困っている方も、地域にいることを皆が気づき、理解し、支える側・支えられる側を分けることなく、孤立している人がいない、皆で支えあう”おたがいさま”の地域を目指して取り組むことが重要となります。

第3期 健康・長寿をめざす地域づくり

基本目標Ⅱ 健康でいきいきと暮らせる地域づくり

これまでの健康づくりの取組によって、健康意識の向上や地域活動など人と人とのつながりも広がってきました。誰もが自分らしく、いきいきとした毎日を過ごすためには、年齢や障害の有無に関係なくお互いが理解し合い、元気で生きがいを持って生活することが重要となります。

第3期 誰もが活動に参加する地域づくり

基本目標Ⅲ 誰もが活躍できる地域づくり

これまでの取組を通し、地域の身近な参加の場として、子育て支援、高齢、多世代交流などのサロンやこどもの居場所などが広がってきました。第4期計画では、若い方や男性、新たな方に地域を知ってもらうきっかけを作り、身近な場でこどもも障害のある方も高齢の方も誰もが気軽に興味のあることに楽しく参加でき、活躍できる風土・環境や仕組みが重要となります。

基本目標を実現するために必要な大切な視点

第3期

- ①一人ひとりの個性や立場を尊重すること ②幅広い世代や人が参加すること
③必要な情報を把握、共有、発信すること ④連携を強め、強化すること ⑤様々な地域資源を開発、活用すること

①一人ひとりの個性を尊重する意識づくり

こどもから大人まで、認知症や障害の有無、国籍や性別に関わらず、一人ひとりを大切に多様性を認め合うことを皆が意識することが大切です。

②健やかにこどもが育つ環境づくり

地域でこどもを育てるという考えを広めていきましょう。

③幅広い世代や多様な人が参加できる居場所づくり

誰もが社会参加できる居場所をみつけられるような機会をつくっていきましょう。

④連携を深めつながりを強化するネットワークづくり

現在、様々な支援機関や団体、学校、企業があり、地域住民とのさらなる協働が求められています。情報の共有や発信、地域資源の活用などネットワークを強くすることが必要です。

⑤必要な人に必要な支援が届くしくみづくり

本当に困っている人が、孤立せず、支援につながられるよう、誰もが住みやすい社会をつくりましょう。

第4期基本目標と大切な視点についてのご意見

全体

- ・ 基本理念、基本目標ともに大賛成。大和言葉を使用し無理なくしみ込んでくる言葉になっている。
- ・ とても分かりやすく、平易な言葉で表現され素晴らしい。大切な視点にも非常に工夫がされている。
- ・ こども、認知症等カテゴリーに分けられている。カテゴリーで分けると分かりやすいが、一方で支援する専門家の言葉にも感じた。
- ・ 第4期計画は、すっきりとし前よりいきいきとした印象を持った。しかし、当事者の立場にたつと、支援者側の目線で見ているようにも感じた。
- ・ 福祉の専門家はカテゴリーで見がちだが、地域で考えるときは、「困窮者」「障害者」等ではなく、そのような人が世の中にいることを理解し、目の前の人がかうであっても、なくても一緒にできる計画になるとよい。
- ・ 基本目標の説明で誰もがと謳いつつ、対象別に（障害・高齢・生活に困っている人・男性・若い人等）限定して出す意味について考えてみたい。

➔基本目標Ⅰでは、支え合う時に困っている人をイメージし、基本目標Ⅱでは、幅広い年齢層での健康と障害のある方もウォーキングに参加いただいたというご意見もあり、広く健康の取組をしたいという思い。基本目標Ⅲでは、これから参加して欲しい人達のターゲットとして、「男性」「若い方」を入れている。

こども

- ・ 明確に「こども」のことが盛り込まれたことが嬉しい。
- ・ シングルの親、仕事で忙しい親も多く、そのような人が中核になって活動するのは難しいが、親が来ないとダメというのではなく、来た時に楽しみ、それが共に楽しむきっかけになると良い。
- ・ 不登校でも、学童や地域の居場所には行けるこどももたくさんいる。親や学校だけでなく「地域でこどもを育てていく」ことが盛り込まれていることが嬉しい。言葉で載せることが大切。
- ・ 「こどもの居場所」とあるが、居場所とは狭い意味での特定の居場所ではなく、広くまち全体が居場所であると考えたい。家庭で触れ合う機会が少ないこどもにも皆が声をかけ見守り育てていける、こどもがのびのびと過ごせるまちそのものが居場所。

基本目標Ⅰ

- ・ 小さな地域で、顔の見える関係の中で、「おたがいさま」という言葉が出ているのが良い。
- ・ 「皆が気づき」が気になる。言いたいことは、「知って理解する」「支える側・支えられる側隔てなく一緒に地域をつくる」ということだが、「皆が気づき」が難しい。皆だと曖昧になる。
- ・ 「皆が気づき」は「あの家に住む誰それが認知症である。」という意味ではなく、地域には様々な要因を抱えた人がいて、それはおたがいさまであり、自分も含まれる可能性があることに気づこうという意味だと思う。
- ・ 誰でも、「気づかれる側」にあるという意味でも、基本目標Ⅰはよくできた言い回しだと思うが、理想と現実を考えると工夫が必要かもしれない。
- ・ 「気づき」は前回の議論のキーワードであったが、入れ方を考える余地はある。
- ・ 「気づき合う」は大事だが、支え合うための「気づき」と考えると“おたがいさま”で支え合う”はどうか？
- ・ 「認知症の方、困っている方」とあるが、それを知られたくない人に個人情報の問題も含め、地域でどうしたら良いかイメージがわからない。具体的な例があるとイメージしやすい。
- ・ 医師会と区役所で行っている認知症連絡会議がある。認知症の方を地域が知ることのメリットは、もし行方不明になった認知症の方がいた際、地域の人が気づき、関係機関につなぎ、家に帰るサポートができること。
- ・ 「見張る」のではなく「見守る」。困っている人が声を上げやすい地域をめざしたい。

基本目標Ⅱ

- ・ 健康でいきいきと暮らすため、高齢者も障害者も安心して外出できるように、道路整備をお願いしたい。いつでも健康相談ができるよう、薬局をあげてまちづくりをしたい。
- ・ 「健康でいきいき」というと病気の人を差別していないかと気になった。病気を持ちながらも元気に暮らせるまちづくりがよい。

基本目標Ⅲ

- ・ 誰もが活躍できる地域づくりの説明に、「身近な」とあり課題もいただいたところが良い。
- ・ 「活躍」は、現在活動をしている人は良いが、地域に向けて「活躍」というとハードルが高いかもしれない。「参加できる地域づくり」でどうか？「活躍」とし目標を高くした方が良いのかご検討を。
- ・ 「活躍」も日常の言葉になっているが、再度検討したい。